



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第4巻 第1号
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77409
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。繁華街論、都市生活共同体論、都市住民の社会関係、郊外
File Information	N004_01S28.pdf



[Instructions for use](#)

NOTE BOOK

都市社會學

二十八年度
特殊講義案

第四卷第一號

繁華街論 都市社會同作論

都市居民社會關係 (不滿意)

✓ 郊外



本ノ一トの内容

才五章

才九節 敬子 華術 其他

(是此節同位語)

才八節

都市住民の教育

同位

才九節 郊外

(生活協同体決定)

調査 調査 調査

才四卷 才二号に

あり

(下巻)

第十卷

都市執考
七の街く都市(米沃)と若之中(都市)

2. 都市職考 (階層別)

3. テパートとク奥屋 (米米都市)

4. 都市住民の一代 (平均人)

5. 計画 都市と物勤都市

第九卷

15. 野野の法型

北大予との居住形式

16. 八万屋と集屋

甲斐市と乙斐市の比較

第十一卷

第十三卷

第八卷 (増巻) 代具備

援助救済の行

定型的の増行

第九卷 各社社会

群集、統計集団、組織

1. 都市執考 (一般)

2. 通都通学園 (帯広、札幌)

3. 通都通学園 (帯広、札幌)

4. 田舎地生活 (群)

5. 田舎地生活 (群)

6. 田舎地生活 (群)

7. 田舎地生活 (群)

8. 田舎地生活 (群)

9. 田舎地生活 (群)

10. 田舎地生活 (群)

11. 田舎地生活 (群)

12. 田舎地生活 (群)

13. 田舎地生活 (群)

才五才九才⁶ 敏才等街その他

都市内の大小様々なサービス
センター

都市には无条件の中心街あり又市内の

各地域に互に衛星的な中や中心街がある

よ。これ等の中心街は无周囲の住宅に對

してサービスマスターとなり一極のワレットエリ

アを形成して居る。これ等のワレットエリは

コモコニタイを形成して居るから都市内には

多分数のみくのみくコモコニタイも存在して居る

と見られるかある。5123 又クインが考へて居る

アーバンコミュニケーションとあるのは、と大規模の

もの、在中規や高層をとり出して居るは

町並で市内の近き拡大による市内に大

ういふことであるところである。

たしかに市内の大甲やの中心街はそれなり

大甲やの中心街はそれなりと云うことは

形成しからぬが、エラアが市内を幾つかに

細分して、その中心街を幾つかに

分して、その中心街を幾つかに

分して、その中心街を幾つかに

分して、その中心街を幾つかに

分して、その中心街を幾つかに

分して、その中心街を幾つかに

分して、その中心街を幾つかに

分して、その中心街を幾つかに

人は土地に固定して生活をして片よる人の
生活の強弱を似て居る。おの人は期せずして
今より土地に集まつて生活して片よるよのは
合理的・合理的に生活を考へて居る者へてあるが
恐らく此の程に生活するのよよりして又さう
人は草花の中に生かされて居る。人の生活の色
の物事のために草花の成長を促して行く
と草花は下界を共に振出して来る。是の
に多量な富しの人や草花に似た人かおいては
草花をつくり出さるる程をばやうと云ふか
又振出して思ふく。

草花の人の心は、日々の生活は大抵

- 1 小売店 卸売店
- 2 デパート
- 3 商業体の消費生活協同組合

- 1 独立商店
- 2 商店群落
- 3 商店街
- 4 市場(マーケット)
- 5 デパート
- 6 商業所内
- 7 行商人
- 8 露元商

の存在は他の人心を有る相違はたし好
 意的な接をせしむるに依りて等なり
 し今よりして一般の心は壹貫の均等の
 如く互に新回し今たり、履修契ぬりぬく
 なく新接に一方は労働を担ひ供し他は
 賃銀をたへたりしと云ふは結果に於ては
 生活を掬かし合ふことのみは日々の生活に
 実上掬かし合ふのほゞ実上する果落ぬ
 の人にてある。果落ぬの人同志は親
 和の子柄の人とあり対立的な人ともあるが
 然し結果を互に挽回せしめれば
 協力して平人の心とあり、事務を異なり

地位を異にし居る。この同様の地位をもつた
結果に於ては、大々分業の各部向にある
格好なのである。その可成り社会の日々の
営みは、^{大々}その人々の日々の生活によつておま
り上つて居る。それ故に生活協同体である。
夏落ぬに生活して居る人間は大抵どの
の生活も、夏落ぬに人々の力支を以てや
り、^{大々}詳しくは、夏落ぬに人々の生活の
形成して居る生活協同体である。其の
ある。

恐らく古い時代の人間の生活に於ては
林業（^{大々}甲種）であったであらう。そこで

當時の仲居を先住に習はせられた。ところが
何れも形を布かたな人が、自ら「仲居」を
たうたしに豊村尾より生産物を賣り、
力をもち、豊村尾の方を強大にし、恐らく
その居村内に彼に専ら「仲居」の人々を
しつゝは、その仲居は、かくの如き者
力者の生活の場所を、階級の大小の
村を、その仲居の下におし、
あるてあうり。古代の巫的仲居の
産、そのよう政治的の産、
何れも、その仲居、
り、は、その仲居、その仲居、

思ひしめ。

素直に即ち、土まを何に何の初は政治的の積
めまとい工人のみに任す高人は早なる
。あににたつて東の市か土平見か
は云はは露店である。すみついた高人は
土まのほよほとあといま。
豊直の生活か、お花の生活で満足すれ
これ大時代はお花か生活協同体
の土まか、お花の生活か向上して都市的
生活を感人に請へす好に有る。富
の田舎か何の同好か指して行く。田舎
所から請へす。よまを多く有る。日七

田舎への交流を促すには生活改善を
なすと先住民同様に村落を
この田舎でも受け入れたい
夏は北へ行くの必要はない
その点を考慮しなくてはならぬ
その国を曲す村の村づくりの
を考慮しなくてはならぬ
コミュニティーを。ローハン
これら他々の中では最も
基盤を整えることは
教員の中の一環は一つの
足るしえる存在。社会的に

社会を包摂するものではない。ローカルなコミュニティ
をより強けし、地域の中心を強化し、またこれには先例
がある。

都市の内蔵性 （中央部の） 都市をセンターと

する。その結果、地域の中心は現在の中心に

いって、より多くの中心を形成する。

にもつて、中心部は多くの発展上の中心

置いた物に行く。これは、色々の報道の中心

場業の中心、流の中心、いさかの思想的

行動的傾向の中心ともなる。この一問の

地域の中心に形成される。都市の中心を

中心部とす。これによって、より多くの

人はその範囲内では自分の生活を送る
か。あるいは子供に生活場同体は自分の生
活意思の範囲である。日々の生活はこの範囲
の人々の上へ送るべきである。なりきる生活
場同体とはなすべしである。

日々の生活は多岐にわたる。同じを念に
「困る」一応修、二困る」一応修、同様に
おかけ、他のセンターはあつた。あつても
か、それらはいかにして、その生活につ
くは、その生活の進歩を常に仰いで、
他のセンターはあつた。あつても、色々の
ケースはあつた。あつた。生活場同体は

おけ。同好も私達の同好に最終に
一線を劃しね。おれが性望のしものしをい。
又或し甲の御をセンターとする地内内の
各戸意くお同好の同好に決まはたて
生活者同好的の同好に足らぬわしを
いわし私達のしつてあ。

この甲の御に生活協同体は一種の社会
同好に^{重積体}と云ふべきで都市の社会構造
をばなくおつてあ。スクリーンをスクリーンよ

りもし、とを予をたつてはあ、
生活協同体とははれしくさの世の同の

種同おけ、遠教いおをけしおとをい。

同好な者同(同人)會である。正統には生活協
同會には云いかぬ。
羽島村落と都市を生活協同會として、ローハン
コングレスや中心街協同會は同人協同會
である。

己故

世田谷区の区民高座街新向を去ると
多摩川区民は大分多区民の多座を新
用して片より多分よ。銀座や新向に
は元来や中座を去るを要するであらう。

大塚の中心街の多座人調おしは是の区域の
人々である。多分である。(都市同好会)

札幌又中野路十車客調量には二十四人の内八割
区民である。五車客は五丁半至内の人々
である。

邦元多子分四項

邦元多子分八項 邦元多子分良の

邦元多子分の特性

邦元多子分一宗族の人々生活の主眼を
邦元多子分の邦元多子分する人々は如何
生活の元智の邦元多子分

邦元多子分
邦元多子分
邦元多子分
邦元多子分
邦元多子分

邦元多子分邦元多子分邦元多子分
邦元多子分邦元多子分邦元多子分
邦元多子分邦元多子分邦元多子分

邦元多子分邦元多子分邦元多子分
邦元多子分邦元多子分邦元多子分
邦元多子分邦元多子分邦元多子分
邦元多子分邦元多子分邦元多子分
邦元多子分邦元多子分邦元多子分

地区

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

同一地区は大体同一都市

却るは
 交易的の生活
 打算の根據

引取をなす事業のみならずか、金を入せ
 ば貯てしるえのは救助されざるもの
 のこと。人の多くは打算のめん
 人と指しあす。金銭は打算のめん
 ののキツク下ある。守銭奴と受
 能く下あす。金銭を一つに下下す
 の中にもあす。おまらキツク下下す
 交はすの大都のつてあす。
 学校の先生も月給をとり、借保も
 お布施をとり。それと米壇をたす
 生活す。金銭をよぶをキツくと
 して他人と交はり助け合ふ。たすの
 大都も民にはないか。
 大それた事、出世死か宗へあま
 大財、そんな国、大財、大財、大財
 場力、それのつてあす。そのつてあす
 にくれ、商人は金を入せはさすを
 くれ、後助、たすはあすか。物と

都市の
 西側
 北側

此者に入れば、金もかしくなく、所も
 は、その時、救済もあつてはなにか。
 是んなる意、時では、その生活に強くなる
 としても、その生活協同体とし
 この都市である。

生活協同体を形成して、都市居住者は
 以上おぼふ。か、その日常の生活は、同一
 都市内の他の人とは、その生活は、同一
 生活協同体の生活である。都市の生活は、
 その居住する一地域に、各限された生活の場
 を作る。生活協同体である。
 農村と比較して、都市は、人々の生活は、
 流動的である。農村の生活は、人々の生活は、
 流動的である。農村の生活は、人々の生活は、
 都市に、十何代まで、生活して、来た。家も、あり
 同様に、存在する。都市の人々、同じ生活、歴史、人々、
 都市を、最も外部に、即ち、つけ、それを、して、
 都市の生活、比較する。都市の生活、比較する。
 の外部への、道路、都市の生活、比較する。
 村に、道路、都市の生活、比較する。

都市の内部と外部

致す。この生活の面は

凡そ人同生活の両極端を示す様な印象を
与へる。東京のイロ珍と大都市の盛衰の
街頭であらう。

外部の物に思ひ民の目に映りしは都市の
生活の暗黒は感ずる物の極端であらう。

是れによつて好し小の都市生活の印象は
は都市住民の社会関係は他人的の一面
的の一時の好むと云ふ事である。

感ずる物の極端は亦人との関係は
正に善の善と悪の悪と云ふやう。

けれども是れは都市生活の善人の一面
であつて都市に在りては大半善の人
の善人である。畢竟善を以てつとめしや

かな生活の善人を忘るゝはたさぬ。
にさやかな表裏もや。豪傑者な大邸宅

街ではなく、且つ庶民のな中々市民の
住居街に足を入れれば、そこには

都市の野音に聞あつくして生活しては
何の餘りも誇強しな都市大衆の生

活は是れよりあらう。是は都市を生物
に事大外事は遠くはよく聞のなると云ふ。

人口の大さ

流知のり

お世流らしきふたゝは同様にあせ流しなむ。
是れは都市生活の良悪を人の集合する
生活の甲乙自ら去るたててあり。
好意をなするに人の数も切りあはさるし
希す可き時し切りあはさるし。都市の
か村落にはそれ切りあはさるし。好意は
種ねのになり可きふたゝは希な思ふ
自ら是れに生じたり。

都市の人の交はるは一時的に去りたり。同
一の場所都市に居住するも其所に
しつ少いし。職もや地味も此の地の定知
がゆゑに甲乙より。我の因心義を
希すは都市には不都合あり。受けし思
義は弦の直ぐに居すつた都市のあり。
世つたうすくあるし。農村の人か
是れは是れは余り残念すべし不特あり。
是れから物がある。此れにはそれ同一
人々のしつをあるし。それなり。
村落には根柢あり。人か固定し人知も少い
ら。百思の玉はは回収けり。其れは少く
くても是れははなし。
此れ都市の人の交はるは他人のしつあり

都市の社会的
考察

このものは過剰と将来の危機を暗示し現在に於ける
この片断のありさまは過剰のその人の又は
元宗族の大方な過失や犯す名光が
現在の独り自身屈してせよ伊予はな
れは皆皆と大方を和置し
は皆皆と大方を和置し
が房易である。大から新市に
相手の過剰と将来の危機を暗示し
る過剰と将来の危機を暗示し
同一の都市内でも少くも住居より遠く
れは道行く人皆皆面談の老人であ
る。取はかた方この言葉の存に未知の人
の字に不義視なうをレやうとをレは
なくとも、自分の家や一狼の過剰と
危慮を自分の政治の過剰と地味から
忘れるやうな片々をををををををを
山のこのやうに相違ない。さればこの下級
市民階級の貧しい家から出て来た高層階
な階級の娘が教習はなななななな
を階級の娘が教習はなななななな
の近隣の人ははその身分不似合な階級
を足してその不適合を解してはななな
整理して彼女の生活が是れを必要とする

都市人の生活態度

子を喜ぶのうしろに思ふ。母もその不
 動をを取あしく思ふ。しほさうしけい思
 るであらう。

生かすおの色の色への才の才の才の色への才
 活の動土かあすの才の才の才の才の才の才
 立ち下つて一字の才の才の才の才の才の才
 才の才の才の才の才の才の才の才の才の才
 下あす。余り知るかたかたかたかたかたか
 一宗にしかる。他の人の一宗にしかる。他の
 と家して一宗にしかる。他の人の一宗にしかる。
 都市人のエケケケケケケケケケケケケケケ
 よう。市民はより生活態度的である。

度るか塔也は指す親生活態度的
 である。正足はは管長には同様に思ふ。こ
 小若かおあまの才の才の才の才の才の才
 かくて都市人は最も階級の必要を都市
 変互相互の才の才の才の才の才の才の才
 をんかたの才の才の才の才の才の才の才
 活概ねであつて、階級を指した。親を
 回念的の才の才の才の才の才の才の才の才
 んな不測の福かあすか知るかあすか
 銘いし知るかあすか知るかあすか知るか

2 範圍内のまはるはすべし別に従ひ
財に尽し才分の端しな。未だの人
々の世居。待望しおつれ世のため人のみ
によくなつてはしなへは共によつてを
ほんししやるとよみのし野人神にな
はぬ行いと思ふ。田舎の村ありて
まゝに旅の恥はかすこの多はか
ちこれれをへ行いす。野村の存在
しつらせむせむ田舎者の心は
しつらけれ曲とれ。又あさなる長人の
村に顔月の行いせぬ。自ら行脚
つらうは人まうない。批評を
鼻肉とユ一モアが都市人の知識の
。都市とはまんな人が上まおへ
村に交はるゝとれとれとれとれとれ
交はるゝとれとれとれとれとれとれ
の交はりてはよく。是れはわか
い。能くはつて人の回る人のたれとれ
との交はるゝとれとれとれとれとれ
なす。交はるゝとれとれとれとれとれ

都市の周辺

一 郊外について

レ 不定な地域を有する同一回を 奥 P.384

レ 隣り郊外登座の第一二期 奥 P.386

レ 郊外は景観に宿るか

郊外は景観に宿るか

奥 P.382
二んた子伝をい

レ 交通機関と都市発展の歩み 奥 P.373

レ 郊外とは景観に宿るか
工場等郊外を有する郊外は宿るか P.370

レ 郊外は都市の人口膨張の表 奥 P.359

レ 都市の四つの郊外圏 奥 P.360

レ 郊外は大都市を有する上り文 奥 P.365

所謂定住としての都市 奥 P.354

景観環境の回復

奥 P.

都市の周辺

郊外は都市の人口膨張に伴い都市の

市域の外部に押し出され人口による形

成されるもので人口膨張率の高く大都市

の周辺に形成される百万以下の都市に

め難いものもある。又郊外には

工場の設置に伴って

工場郊外とも名前の設けに伴って郊外

とか目をし考慮する人があつた。R990

はより住宅の郊外の自営を本業の郊外

を主とする。

郊外は都市人口の膨張のために都市の

外周に形成される特殊な生活形態を

まじりつゝ人への生活形態に近づけた名称
であることは当然である。それか特に巨大都
市にのみ見られる特殊現象とは思はれない。
人口増加の傾向にある大中町の何れの都市
に比較して認められることは、一般に
郊外とある場合は巨大都市の中心の中心に
いてその中心となるのは、凡そ都市の周辺に
常に認められる特殊な周辺部の生活形
態を一つの単位として身へることもあらずし
その特徴もまた、この際である。私は今こゝ
ではその意味で特に都市の周辺と認められ
るよう、都市の周辺部に都市に比し小規模な

の社会政策を考案して見たい。

東京部の場合は都市の人口増が
市域の外に形成された時に四回迄は
に郊外圏を作らねばならぬ。第一
第一回目の郊外は形成された時は第一
回目の郊外は完全な市域に含ませる
べきである。三回目四回目も同じ
形である。二回目は郊外は都市部
内のである。過渡的を政策へある。都市
としての未定成が意味する所は、
人口の増が郊外に形成された時は
都市人の増加率の倍に巨大都市の場合

である。何程かの増加率をいってや
いんちや都市に止存しない筈はたゞ又都
心か同じであるに都市の外周も
特殊な回りを描く片に相違ない^{人の}持
加の強を停止して片を都市にいつても
同じはやけり同じである。

巨大都市の場合には郊外には三つの^{文化の}脈路
がある。在来の農村的片位互の仲に新来
の都市よりの人口がこれ文化が~~従~~従属的
である。次に兩名が描く。其時期
は好むに都市文化が在来の片位互
を~~従~~従属的地位に置く時期である。
(386)

このうちは足利の御かしも同じである。その
場合には人の増から伴う魂子ではなく
豊村が都市と交流する場合には「都
市化の同じである。かりに都市の人の増から
率を停止し^る都市がその外国の中心
に交流と共に都市化の速を及ぼし
行く政令は是より小であり、特に都市
の周辺部の中心村にほらるる影響が中心
甚しいので、都市の周辺部には都市の
成長より抑しあるは人の増加なく、
④ 国の中心より抑し寧ろまた極大特産
の半都市的な形態を及ぶ。

都市の周囲には外。亦より
見れば

須田君の青森市の研究挿入

農村の側から見た法華寺、充分に農村的
の部分、農村文化と都市文化と接触中
の都市完全な都市的となつて、農村部
分からいへば、それは大都市の郊外
の場合と同じく都市より其市域外の
各方向に向ふ交通路に沿居するの
所也。青森市の場合についての實際
的研究は次の如く耳す。須田君の研究
正に都市の市域より郊外へはみ出さる
人々の部分を郊外と云ふならしむれば
都市の周囲より都市に属する人々
と都市と一つとなしとす。郊村と云ふ

のちであらう。

巨大都市の郊外の場合、郊外には、市域の人の寢居である。特に、郊外のみに列ねると、むしろ、場合によっては、寢居、郊外が、急増する。市域への生活依存の甚く無いのを意味して、片、其の寢居として、生活の主要な部分は、市域内に依存して、片、月給収入の大部分は、市域から得られる収入の大部分は、市域で消費する。勤め、と、まうし、子供のため、おし、自由さ、の、買物、も、郊外で、な、中、には、女中と、猫と、丈夫な、郊外の家に留守を、して、片、と、あり。

生活の依存度からいへば郊外は不安定な
な地方であつて、その内へ之を安んずる生活は
支那でも十分な。空間的な区画が少
し遠く専ら本郷絶して片々又鎌倉は
健全な依存度ありては在るもの郊外
に在るよ、と奥井氏は云つて居る。

同様にうへは都市化の最も進んだ部
材にいつてしまふわけ。郊外の物令でも
都市化の最も進んで居るには生活の依存
度は低い。

生活の依存度が高ければ場所がたとへば
あつては健康して居るに於ては
その人は

2斤の欠くべきを。けわしい果し
とさうであるか。生活環境の
存在を、つとまを核として、
たうぬ。

巨大都市の郊外の場合、郊外はその内では
生活も充分にみだしわいて、完全な社会
であるか。

世田谷区の名を思ふと、金額の高いものは
銀座や麹町をとり、木やけりしは市の
外や野暮や竹園など、東京とは異なる
品あり、世田谷区は、世田谷の産物
木やけり、世田谷区は、世田谷区は、

たしかなる高層街は三十七ヶ所あり。孤立高
層はこの外にどの位置か足るはつかない。
これは世田谷区内の事である。郊外には
五ヶ所あり、西沼郊外地に於いては高層高
層も孤立高層もは強くと位置が窺える。
と同時にこれはたゞの事である。
そしてその位置は日本の各都市や地域は
多岐に及んで、未だよくは大部分の事である。
うか。人間の生活圏は都市外に及ぶにつれて
一町二町の区画はかまつかつたつたもの
をよ移るもの、各層りはたの必要はた
めし進んで、不満をたぬし未だの

つたつてあうか。

郊村についていふことは、このふたつは、
大抵おなじやうなものである。附近にやはり
生活を送る。店やその他のものも、
よつてはないてあうか。

高層の住居も、生活の必要は
附近のふたつのものである。人は家外に
を精進する。費用は全く同じで、一寸も

をかける。水は井戸や、
流の水を利用する。水を
し郊外の家を建てた。郊外の人
郊外の人も生活協同体としての都市に

してそれ以上色々の意味を帯びて居るし、
のほかにある。

郊外は界やを窺ふにはあつては居る、鎌倉
は鎌倉の生活協同体も有して居る、生活
協同体への可成決定の子孫も同じであらう、
生活の本據をどの生活協同体にあくかの
同じであるか、それこそその本據をよめるか、同
じである、可成生活の本據も二ヶ所にある
人もある、であるが、私には本質的を因
縁を思定ぬんとして居る、可成生活の
形にいつて居る。

工場郊外もある、よつと思ふ、工場の連絡

が郊外にあらざれば、是より偏
く人の即ち是を職務とし、人の本
大部分は生活協同体にならざるの
職場はは生活協同体にならざる。尤も
是の所有は本も生活協同体にならざるも
此等の所有はは生活協同体である。

都市は一つの生活協同体、その外は
互に互の位元による。職場は

此にありて同じである。互に偏く人を
互の生活協同体にする。互に互の位元

は生活協同体、互に互の位元

人が大部分何れの生活協同体にならざる

よ、この決定である。それは形式的決定である。
から、インテリジェンシーによる一定の立場上の決定
同し、始めて明白となる。ローハンツェンツェン
決定の場合と同じである。

奥井くが部外は都市の階級の階級的な
邸のありとさうなく、市域に職場に毎々

かよって居る人々、あのラウレンツァウアーの電中

にあるままに居る人々の居住地帯であることに

つて片よは、都市への依存度の甚だしい如何

に都市人々の寝所としての郊外を去るに

つて片よ。さうして通勤圏と通学圏が都市

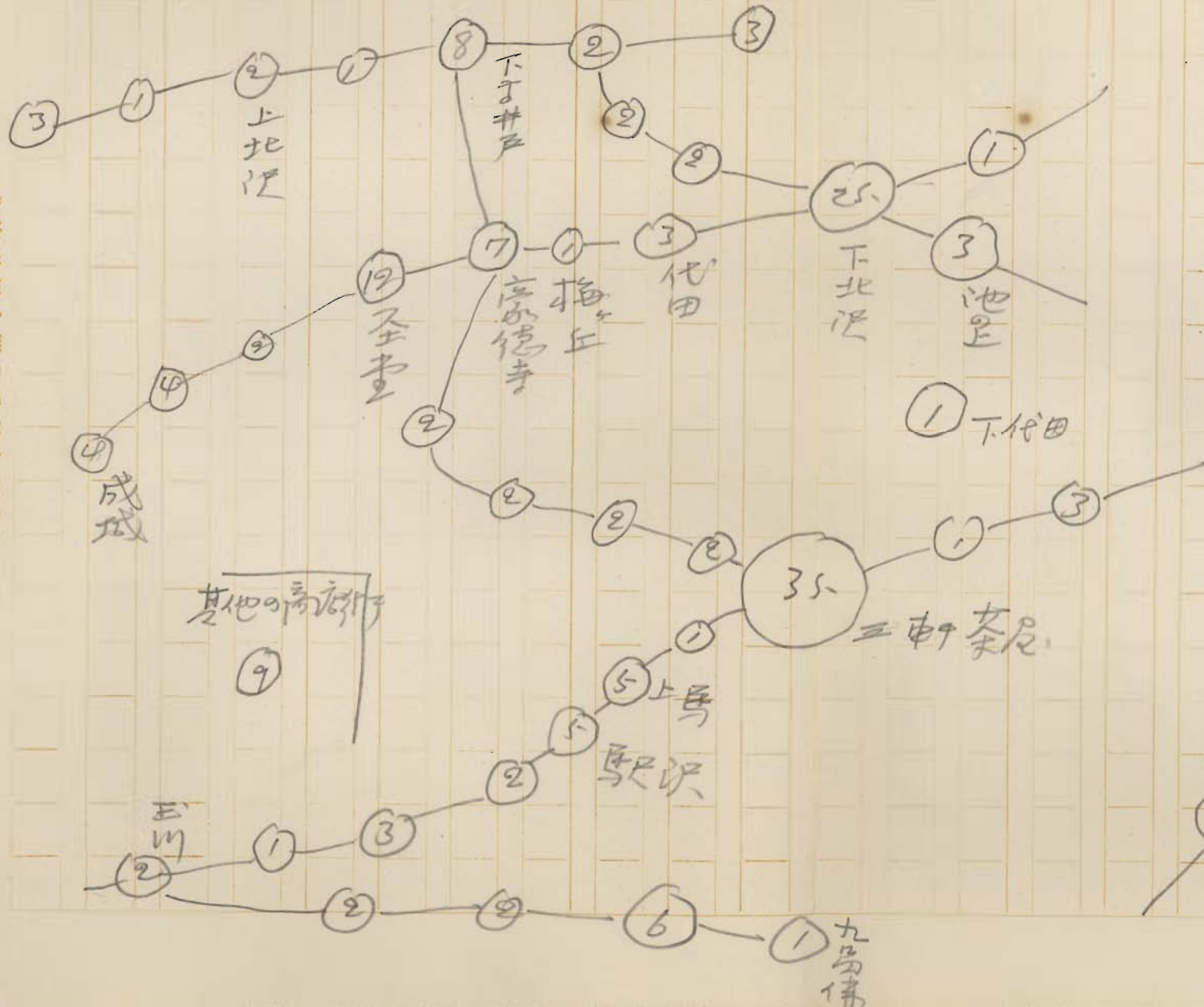
の近きとして都市の郊外を去るに

思ひに通勤する人は水くぐりの居住の形
態として生活協同体になりつゝ、郊外
は之をも曾ては完全に独立した生活協同体
を形成して片大、漸次都市の生活協同
体の内にお收され、市内の各地に散在す。
高層街が市内の島の形に各地に^{一域}リン
クエニターを依つて片大と同様に郊外も
市内の一つの島である。大都市の郊外に
は島は四方に形成され、水くぐりを連絡す
る市心を中心とし、^同円をたつて片大の
おろく。円周の方面に^同同様の島の
都市である。郊外は市の一つの島として

世田谷区区内商業地域利用政道(案)

本区は振興対策子のおかげから、区民生活と生活の地域的実践を調査する必要があることはよくとらえて、先づこの種の調査はよくおこなうべきである。その種の調査は、本区より区民生活調査員とその宗教給一四世帯に付き、一十五名目を指定してこれを各町丁目入会軍の自計調査を実施し、かつ各町丁別の居住職能表をキツクしこれを各町丁別の人口は比例換算して、各町丁目別に国民の生活物資消費状況推定するとして、その結果をこの回並みに次の三表で発表するのとすべし。また部分的調査のうち、特にまち調査内容を町別別にふるひ、調査順位と消費係数に未だた、この種の調査の量却つてあるべきである。この種の調査は、この種の調査の量却つてあるべきである。この種の調査は、この種の調査の量却つてあるべきである。この種の調査は、この種の調査の量却つてあるべきである。

世田谷区区内高層街利用現況図



○12の大きさの敷地をその地域の中心に設け、高層街利用をその中心を基とする

世田谷区
P.25

奥沢
8

現在区外高き地域別の高直低取は調査
 にもおそれに渋谷21 新富14 白地5 江も 昭厚
 3 日中橋5 その他4 合計51であるが、区外
 民総購買力指数の29%増は、区外に
 流れていふことには、
 なる区外では次の調査にあらざるに、概し
 2高價なものも電り機など、さういふものあり
 調査も位を調査も、調査にともなう、
 互にその比率はたゞく、
 なるものも、
 なるものも、

区外	2	3	4	4	6	6	16	24	32	32	34	45	61
区外	98	99	96	96	94	94	84	71	68	68	65	55	39

生活物資 品目別購買力 区内外比較調査
 ソ菜類 惣菜類 鮮果類 肉類 菓子類 調味料
 品類のやうな消費的 生活物資は、調査に
 あり、
 の高直低取の、
 の高直低取の、

2%から5%
6%
程多し
か
さ
す
す
し

025-29